



## 学友会コーナー 生徒活動紹介のコーナーです

### 県大会の結果 主なもののみ掲載

#### かるた部

第20回長野県高等学校かるた大会  
清陵 4-1 飯田  
清陵 3-2 下諏訪向陽  
(6年連続6度目の優勝で、近江神宮で開かれる全国大会へ出場決定)  
同個人戦  
上級の部 2位 三ツ井夏月(3-2) 3位 井澤優佳(2-2)  
初級の部 6位 後町侑希(1-2)

#### 長野県高等学校総合体育大会

##### 陸上部

走高跳 倉橋由宇 4m20 2位  
走幅跳 窪田章吾 6m84 2位  
米久保一樹 6m54 8位  
三段跳 窪田章吾 13m62 3位  
女子オープン棒高跳 田中優奈 2m90 3位

##### 剣道部

男子団体(金森・斐嶋・武井・小口・大島)  
予選リーグ 清陵 2-2 篠ノ井  
清陵 4-1 野沢南、清陵 0-2 松商学園  
女子団体(奥野・山本・武川・徳田・降幡)  
予選リーグ 清陵 2-2 松本県ヶ丘、清陵 3-1 上田千曲  
清陵 0-5 長野商業

##### 女子バスケットボール部

1回戦 清陵 70-74 岩村田

##### ソフトテニス部

団体戦 男子 清陵 1-2 松商学園 女子 清陵 1-2 豊科  
個人戦 男子 1回戦 清陵(小林・中谷) 1-4 野沢南  
3回戦 清陵(小池・花原) 0-4 上田千曲(ベスト16)  
女子 2回戦 清陵(野澤・長田) 1-4 長野吉田

##### 男子硬式テニス部

団体戦 1回戦 清陵 1-2 上田  
個人戦 シングルス1回戦 清陵(中村和明) 4-6 松商学園  
ダブルス1回戦 清陵(中村・平島) 2-6 長野日本大学

##### 女子硬式テニス部

個人戦 シングルス1回戦 秋山奈穂 0-6 中村(須坂)

#### 端艇部

男子シングルスカル 決勝A 1位 伊東壮十郎 2位 小松拓磨  
5位 名取公甫 7位 波多野和樹  
9位 白砂元海 12位 高砂遼  
ダブルスカル 決勝A 3位 清陵A(山本・中野)  
クオドルプル 決勝A 2位 清陵(大内・両角・小林・宮下・小川)  
女子ダブルスカル 決勝A 1位 清陵(岡部・小口)  
クオドルプル 決勝A 1位 清陵(土屋・高橋・入江・小林・小池)

#### サッカー部

1回戦 清陵 0-1 都市大塩尻

#### ハンドボール部

1回戦 清陵 32-17 上田千曲 2回戦 清陵 13-28 野沢北

#### 水泳部

長野県高等学校選手権水泳競技大会 兼北信越高等学校体育大会水泳競技大会予選会  
決勝 男子50メートル自由形 松澤光希 25秒09  
男子100メートル自由形 松澤光希 55秒20  
男子200メートル自由形 松澤光希 2分06秒79  
男子200メートル個人メドレー 春日亮 2分23秒61  
男子400メートルフリーリレー 松澤光希・春日亮・小口健吾・松澤巨希 3分56秒02  
女子50メートル自由形 上條瑞歩 29秒78

### 北信越大会の結果

#### 陸上部

棒高跳 倉橋由宇 4m20 9位  
走幅跳 窪田章吾 7m06 6位(インターハイ出場)  
三段跳 窪田章吾 13m86 9位

#### ソフトテニス部

個人戦 男子2回戦 清陵(小池・花原) 2-4 小松市立

#### 端艇部

男子シングルスカル(小松) B決勝 4位(3'34"41)  
シングルスカル(伊東) A決勝 6位(3'32"23)  
舵手付きクオドルプル(大内・両角・小林・宮下・小川) B決勝 1位(3'09"01)  
女子ダブルスカル(岡部・小口) A決勝 4位(3'41"09)  
舵手付きクオドルプル(土屋・高橋・入江・小林・小池) A決勝 4位(3'26"08)  
(男子シングルスカル(伊東)、女子ダブルスカル、女子舵手付きクオドルプル インターハイ出場)

## クラブ紹介<sup>30</sup> 吹奏楽部

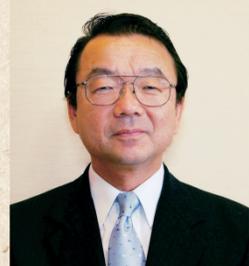
おはようございます。吹奏楽部です。  
この部活は現在48人から成っており、清陵の中でも最大級の規模です。更に、吹奏楽部員は一人ひとりの色も濃いため、部活内はさながら賑やかなスーパーマーケットのようです。  
そんな48人が一人ひとりの音を合わせた時、そこには爆発的反応が生まれ、私たちに音楽の素晴らしさというものを見せつけてくれます。これこそが吹奏楽、そしてこの部活の醍醐味です。  
多くの方が支えてくださることへの感謝を胸に、今日も音楽やっています。



吹奏楽部部長 矢崎つづみ

### 仲間といっしょに

### 校長 佐藤 尚登



今年から科学技術振興機構(JST)の主催による「科学の甲子園ジュニア」が始まります。これは中学1,2年生が6人でチームを組み、理科や数学など複数分野での生活や社会と関連する課題を解決する筆記競技と、ものづくりやコミュニケーションの力で課題を解決する実技競技の二つで競い合うものです。実はそのモデルとなるものが2年前に始まっています。「科学の甲子園」がそれです。「科学の甲子園」では、高校や高専の生徒6人1組のチームが理科、数学、情報等の分野の力を競います。諏訪清陵チームは平成23年度、初代長野県代表として兵庫県西宮市の大会に出場しました(昨年は残念ながら県2位で、全国大会出場を逃してしまいました)。

ところで、この「科学の甲子園」ではどのような問題が出されるのでしょうか。第1回の問題の中には次のようなものがありました。「24cm×24cmの厚紙でできるだけ多くの甲子園の土が入る容器を作りなさい。」4隅を切り落とした直方体は誰でも思いつきますが、それだと切り落とした紙が無駄になります。直方体よりも半球型の方が容積は大きくなるかもしれませんが、実際に作るのは難しそうです。

第2回の実技問題では「与えられた機材を使って金平糖の表面積を計測する方法を考え、その精度を確認しなさい。」というものが出されました。あの複雑極まる金平糖の表面積をどうやったら測れるのでしょうか。

日頃授業で取り組んでいる数学や理科の問題とはずいぶん趣きが変わります。記憶している問題のパターンを思い出し、数値を変えて計算して答えを出すことが数学や理科の勉強だと思っている人は戸惑うかもしれません。私たちが現実の暮らしの中で直面する課題は、数式の形で現れることはありません。けれども数式を扱うことに熟練していなければ、上の二つの問題のいずれにおいても正解にたどり着くことはできません。

それからもう一つ、「科学の甲子園」も、今年から始まる「科学の甲子園ジュニア」も「6人1チーム」ということが重要だと思います。1人では解決できないことでも、仲間と相談することでヒントを得たという経験は誰にもあるでしょう。今、社会が求めるのは仲間と力を合わせて仕事ができる人だと思います。

清陵高校では、生徒諸君に確かな学力を身につけてもらうこと、仲間と交わることでさらに自分を高めてもらうことを大切にしてきました。先輩たちが築き上げてきたこの校風の中で力を試してみることを、中学生の皆さんに強くおすすめします。

### 第63回清陵祭開催(7月5日~7月8日)

テーマ「燦爛(しゃっか)」  
熱く赤々と燃え盛る炎の色を指し、転じて祭に懸ける清陵祭の血気盛んな様をあらわす。



月	日	内容
8月	1日	中学生体験入学
9月	2日	端艇大会
	10日~13日	第2回定期考査
	27日	クラスマッチ
10月	12日	授業公開・PTA講演会
	24日	湖周マラソン
11月	5日~8日	2年研修旅行
	5日~8日	1・3年第3回定期考査
	20日~22日	2年第3回定期考査



## スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

本校は平成14年度に文部科学省より初めてSSHの指定を受けた全国24校のうちの一校で、本年度で指定12年目(第3期4年目)となります。本校では、科学技術系人材の育成のため、独自のカリキュラムによる授業(スーパーサイエンス・科学英語入門・SSH情報等)や、大学・研究機関などとの連携(信州大学・セイコーエプソン等)、海外科学研修(アラスカ大学フェアバンクス校研修)、地域の特色を生かした課題探究など様々な取り組みを積極的に行っています。また創造性・独創性を高める指導方法、教材の開発等に取り組んでいます。

## 海外科学研修

毎年3月上旬、2年生スーパーサイエンス(SSH)講座の生徒がアメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクスを4泊6日の日程で訪問しています。昨年度も現3年生30名が渡米して、アラスカ大学フェアバンクス校の先生方の地球物理学、アラスカの自然など各分野の授業を英語で受講しました。また、夜間は3日間にわたりオーロラの観測や極地課題探究に取り組みました。本年度も平成26年3月3日からの4泊6日の日程で実施する予定です。



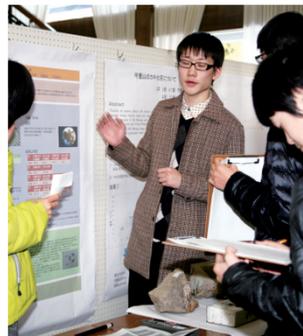
## 遺伝子操作実習



8月上旬の2日間、信州大学と連携して「遺伝子操作実習」を行います。例年、本校で「オワンクラゲのGFP遺伝子の形質導入実験」を実施した後、大学で「大腸菌プラスミドのクローニングと制限酵素による切断」「口内粘膜細胞DNAのPCR法による増幅」実習に参加します。参加者全員が興味関心を持ち、探究心をもって講義・実習に取り組めた、と答えています。

## 課題探究と各種大会や学会への参加

SSH講座は、1年次の秋に1講座約30名を募集し、2、3年次に独自のカリキュラムで学習しています。2年次には一年間かけて各自の課題探究を行い、翌年2月中旬に諏訪市文化センターで発表会を開いて全校生徒及び一般の方々に成果を発表しています。なかには学会やコンクール、各種科学オリンピックに参加している生徒もいます。一昨年度は科学の甲子園へ長野県代表として出場し、昨年度は1名が生物学オリンピック全国大会出場資格を獲得しました。本年度も日本地球惑星科学連合2013大会で「高高度スプライト現象」など2グループが発表し、7月中旬には長野県の日韓青少年サイエンス交流事業で「守屋山のカキ化石」グループが英語を交えて研究発表をします。



## 卒業生の言葉

昨年度卒業生から清陵の思い出、大学の様子などを聞かせてもらいました。

## 進路

File no.1  
宮澤 汐莉  
早稲田大学  
社会科学部

清陵でしかできないことを全力で

振り返ってみると、清陵で過ごした3年間は本当にあっという間でした。それは、それだけ充実した密度の濃い時間を清陵で過ごせたからだと思います。

部活と勉強の両立。私はこれを常に頭に置いてきました。私はバドミントン部に所属しており週4日の練習に励んでいました。練習日は多くはないですが、厳しい練習の後などは疲れてしまい、勉強をおろそかにしてしまうこともよくありました。しかし、予習復習、定期テストや小テストに向けての勉強など、やらなければならないことをコツコツとこなすようにしました。また、電車の中などの暇な時間を使って、英単語や日本史の年号を覚えたりと、少しずつ知識を増やすようにしました。そのようにして積み上げた知識は受験勉強の基盤にもなったと思います。

部活を引退してからは勉強ばかりの毎日、正直「嫌だ。」とずっと思っていたのですが、継続して勉強していると、学力が伸びているのを実感できて楽しいと感じられるようになりました。志望校に合格した時は、諦めずやってきて本当によかったと思いました。

卒業した今、清陵で得た豊富な経験、それに伴う自信は必ず自分の役に立ってくれることを実感しています。部活や勉強はもちろんですが、清陵にはそれ以外にも、全力で取り組めることが沢山あります。高校でしかできないこと、清陵でしかできないことが沢山あります。ですから、清陵生にはそれらの一つ一つに全力で取り組んで、楽しい学生生活にしてほしいです。

清陵は夢の実現への一歩

皆さんこんにちは。今年、清陵を卒業して東京工業大学に入学した宮阪健太郎です。1、2年生はこれからの清陵を担うために学友会活動や部活動などを先輩から引継ぎ、3年生は受験生として本格的に勉強を始める時期だと思います。3年生には勉強のアドバイスをしたいところですが、もうこの時期はみんな一生懸命勉強するのが当たり前なので頑張るやるしかありません。夏からが勝負です。俺は理系なので、数学、物理、化学、英語を中心に学習しました。日々の演習も欠かさず毎日解けるまで考えました。1、2年生は、せっかく清陵に入ったのだから本当の意味で清陵生になってください。将来みんなが社会に出た時に、それまで身に着けたことで勉強はもちろんのこと、その他にもリーダーシップ、協調性、自己主張性、他人の前でもはっきり自分の考えを言えるなどが重要になってくると思います。それを鍛えるために、談話会、討論会、清陵祭といった色々な機会があります。そこでは自分の言いたいことを言う人、それを聞いて考える人など、いろいろな人が集まって清陵という小さな社会をつくっています。俺は大学生になって、グループディスカッションの時間にさらにこういった必要性を強く感じるようになりました。大学入試は本当に緊張しましたが、こうして目標の大学に合格できたのも俺が清陵生だからだと思います。最後に、中学生の皆さんも清陵は必ず夢を実現してくれるので是非清陵生になってください。

File no.2  
宮阪 健太郎  
東京工業大学第4類

## 3学年進路係より

先日行われた清陵祭では、3年生はその先頭に立ち、各小委員会やクラブ等で準備を進め、そして無事、有意義に終えることができました。またクラブ活動では更に上の大会へとコマを進めたり、あるいはまだ大会やコンクールを控えているなど、いくつかの団体は引き続き日々の練習に励んでいます。

そうした中、4月からは、いよいよ3年生という意識でスタートをしてきました。授業はもちろんですが、放課後や土曜日には自反室(自習室)を積極的に利用したり、研究室で教科や進路の質問をする姿などが多く見られるようになってきました。また模擬試験の回数も増え、結果が返却されるたびに自分自身の現在の学力を再認識し、学習計画を見直しながら学習を進めています。

今年度の3年生の進路希望ですが、243名中、141名が理系、102

名が文系のコースを選択し、およそ200名ほどが国公立大学を、40名ほどが私立大学等を希望しています。具体的な希望分野の概数ですが理工・情報60、医歯薬30、医療看護福祉15、農水産獣医畜産15、文語学20、人間総合国際15、教育30、法経済商社会30、体育芸術10、家政生活科学15、未定その他等3前後(4月の進路希望調査をベースにしてありますが、希望の変動があるため、概数で示してあります)となっています。例年と比較すると地元信州大学の希望が多く、医歯薬系と教育系の希望が多いのが特徴的な点です。

今月末には夏休みを迎え、受験まであと半年となります。計画的にそして、着実に学習を進め希望の進路を貫いていくことを期待しています。